

予 算 要 求 資 料

令和4年度当初予算

支出科目 款：農林水産業費 項：農業費 目：農山村振興費

事業名 都市農村交流推進事業費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

農政部 農村振興課 農村企画係 電話番号：058-272-1111(内3173)

E-mail：c11427@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 2,000 千円 (前年度予算額：2,000 千円)

<財源内訳>

| 区 分 | 事業費 | 財 源 内 訳 | | | | | | | |
|-----|-------|------------|------------|------------|------------|-----|-----|-----|------------|
| | | 国 庫 支出金 | 分担金 負担金 | 使用料 手数料 | 財 産 収 入 | 寄附金 | その他 | 県 債 | 一 般 財 源 |
| 前年度 | 2,000 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2,000 |
| 要求額 | 2,000 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2,000 |
| 決定額 | | | | | | | | | |

2 要 求 内 容

(1) 要求の趣旨（現状と課題）

新型コロナウイルスの影響で都市住民のライフスタイルが変化し、田舎暮らしへの関心の高まりや定年退職を契機とした農村での定住志向などの「田園回帰」の動きによる日本の農業や農村への魅力が再認識されている。岐阜県の農村地域へ興味をもってもらうきっかけとして、多様な地域資源を活かした都市農村交流（グリーン・ツーリズム）を推進し、農村の魅力を広く発信して、農村の関係・交流人口の増加を図る必要がある。

(2) 事業内容

ぎふグリーン・ツーリズムを中心とした都市農村交流など、農村地域の資源を活用した活動の推進や情報発信を行う。

【内容】

- ・ 「ぎふの田舎へいこう！」推進協議会と連携したグリーン・ツーリズムの推進
- ・ 農村地域の魅力を伝える冊子の作成
- ・ 大都市圏での移住・定住フェア等でPR・セールス活動の実施。

(3) 県負担・補助率の考え方

活動範囲が県全域にわたる協議会の活動と連携した施策であるため、県負担とする。

(4) 類似事業の有無

無

3 事業費の積算 内訳

| 事業内容 | 金額 | 事業内容の詳細 |
|------|-------|--------------------|
| 旅費 | 440 | 職員旅費 |
| 需用費 | 60 | 事務用品購入費 |
| 役員費 | 60 | 郵送・通信費 |
| 委託料 | 1,400 | WEBサーバー維持管理、PR冊子作成 |
| 使用料 | 30 | 会場借り上げ料 |
| 負担金 | 10 | 全国農泊シンポジウム参加費 |
| 合計 | 2,000 | |

決定額の考え方

4 参考事項

(1) 各種計画での位置づけ

「清流の国ぎふ」創生総合戦略、ぎふ農業・農村基本計画

(2) 後年度の財政負担

「清流の国ぎふ」創生総合戦略の計画期間であるR5まで実施する。

事業評価調査書（県単独補助金除く）

新規要求事業

継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか

自然、文化など農村の豊かな地域資源を活かしたグリーン・ツーリズムの推進及び都市との交流を促進し、農村地域の活性化を図るため、「ぎふの田舎へいこう！」推進協議会と連携して人材育成やネットワーク強化などの受入体制づくりと効果的な情報発信を図るとともに、都市住民に農村地域の魅力を発信することで、農村に人を呼び込み、農村機能の維持を図る。

（目標の達成度を示す指標と実績）

| 指標名 | 事業開始前 | R2年度 実績 | R3年度 目標 | R4年度 目標 | 終期目標 (R5) | 達成率 |
|----------|-------|------------|------------|------------|--------------|-------|
| | | | | | | |
| 農林漁業体験者数 | — | 100千人 | 260千人 | 270千人 | 280千人 | 35.7% |

○指標を設定することができない場合の理由

（これまでの取組内容と成果）

| | |
|---------------|---|
| 令和 2 年度 | <ul style="list-style-type: none"> ○ Webサイト「ぎふの田舎へいこう！」による情報発信により、サイト訪問者数は増加したが、新型コロナの影響で、農林漁業体験者数の増加にはつながらなかった。 ○ 「ぎふの田舎へいこう！」推進協議会と連携した受入体制の支援を行い、推進協議会が実施する各種研修会やネットワーク大会等の開催を支援し、県内農林漁業体験実践者のレベルアップを図った。 ○ 農村地域の魅力を発信するパンフレット「ヒトビト」を作成し、PRを実施した。 |
| 令和 3 年度 | <p>令和5年度当初予算にて追加</p> <p>指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___ %</p> |
| 令和 4 年度 | <p>令和6年度当初予算にて追加</p> <p>指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___ %</p> |

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

| | |
|---|--|
| <p>・ 事業の必要性 (社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断) 3 : 増加している 2 : 横ばい 1 : 減少している 0 : ほとんどない</p> | |
| (評価) 3 | <p>・ 新型コロナウイルスの影響により、地方回帰の流れが加速しており、都市農村交流の更なる推進が求められており、必要性は増している。</p> |
| <p>・ 事業の有効性 (指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか) 3 : 期待以上の成果あり 2 : 期待どおりの成果あり 1 : 期待どおりの成果が得られていない 0 : ほとんど成果が得られていない</p> | |
| (評価) 2 | <p>新型コロナウイルスの影響による緊急事態宣言などの影響により、人流に制限があったことから、農林漁業体験者数が減少するなど直接的な効果は得られなかったが、ホームページの閲覧数の増加など間接的な効果があった。</p> |
| <p>・ 事業の効率性 (事業の実施方法の効率化は図られているか) 2 : 上がっている 1 : 横ばい 0 : 下がっている</p> | |
| (評価) 1 | <p>民間団体と連携してグリーン・ツーリズム推進の取組を効率的に実施している。</p> |

(今後の課題)

| |
|--|
| <p>・ 事業が直面する課題や改善が必要な事項 ぎふグリーン・ツーリズムの情報発信や観光、移住定住施策との連携強化が必要。また、交流滞在時間を伸ばすため1日体験から農泊へ誘導を図る必要がある。</p> |
|--|

(次年度の方向性)

| |
|---|
| <p>・ 継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか 地方分散、田園回帰の大きな流れをつかむためにも継続すべき。各種施策を、関係課や「ぎふの田舎へいこう！」推進協議会と連携して取り組む。</p> |
|---|

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

| | |
|------------------------------------|---|
| <p>組み合わせ予定のイベント 又は事業名及び所管課</p> | <p>移住定住フェア【地域振興課】</p> |
| <p>組み合わせて実施する理由 や期待する効果 など</p> | <p>・ 都市部からの移住希望者に対し、農村の魅力をもPRすることで、農村地域への移住を促進する。</p> |